

## 第15週

【問題1】 解答例は以下のとおり（16から20についてはテキスト第15週で学習した例文の中に出てくる語句を解答例としてあげておきます）。

1. ひとつには
2. さらに、そのうえ
3. 第1に、まず最初に
4. おまけに、そのうえ
5. とりわけ、なによりも
6. そうだとしても
7. にもかかわらず、それでもなお
8. 対照的に、反対に
9. 逆に、それどころか（反対に）
10. …と仮定して、（…は）…だとして／すれば
11. …ということを考慮して／すれば
12. 要約すれば
13. そういうことなので
14. 結局
15. 上記のことにかんがみて
16. chances are . . .
17. do well to *do something*
18. end up *doing something*
19. propose to *do [doing] something*
20. recommend *doing something* または recommend that *someone (should) do something* (should は省略可)。英国用法では recommend *someone to do something* の文型も可。

【問題2】 解答例は以下のとおり（解答例はすべて第15週で学習した例文です）。

1. This would greatly increase the time it (would take) them to respond to a service call from the Tokyo area.
2. This, (however), will not justify the cost difference between the EZCOPY 800 and the AX-5000 since we do not need this added capability as a printer.
3. This option, (therefore), is not recommended.
4. (In fact), if you have a typing speed of 50 words a minute or more, you can actually write twice as quickly as those who handwrite their assignments.
5. (Above all), the biggest payoff of acquiring word processing skills (may be) that it (could) increase your chance of getting good grades on your assignments.

【問題3】 解答例は以下のとおり（解答例はすべて第15週で学習した例文です）。

1. I further recommend, on the basis of my survey findings, that we replace our present copy machine by purchasing an NBM faxcopier, Model AX-5000.

2. In addition, they have a local service center close to our office, making it possible to respond to a service call from us in less than 60 minutes.
3. Although this may be wishful thinking, one thing for sure is that you will never be punished on this account.
4. For all these reasons, you would do well to acquire word processing skills at the earliest possible stage of your college life.
5. This will not only ensure your success as a student, but also help you enjoy your college life by making it possible to put to better use your precious time and money which would otherwise be wasted.

【問題4】書き換え例とコメントは以下のとおり。

In many ways, things in Japan are quite different from those in the United States (TS). For instance, we strike matches away from us, while they strike matches toward themselves (SS1). Japanese mothers carry their babies on their backs, but American mothers usually carry their babies in their arms (SS2). We love to eat raw fish, while in America even a cat wouldn't eat raw fish, says my American friend John (SS3). Many things in Japan are thus quite different from those in the U.S. and may sometimes seem simply weird (TS rephrased). For some Americans living in Japan, then, it is quite natural to suffer something known as culture shock, if they cannot get used to these "unusual" habits and customs (CS).

TS = topic sentence (主題文)

SS1～SS3 = supporting sentences (支持文)

TS rephrased (主題文を別の形で再現したもの)

CS = closing/concluding sentence (結文)

このエッセーは、ある日本人大学生に英文エッセーの書き方についてひととおり説明したあと、その応用練習として書いたもらったもの。書き出しのセンテンスはあらかじめ「主題文」として与えてある。不完全な形ではあるにせよ、「主題文→支持文→結文」という基本的な構成が一応できているのはそのためである。文法・語法上の問題は特にないが、エッセーとしては結果的に説得力のない「ひとりごと」のような文章になってしまっている。

原文の第2文(SS1)は、日米の文化や風習の違いを示す例としてマッチの擦り方を取り上げることが適当かどうかという問題は別にして、形式的には特に問題はない。第4文(SS2)は日本の母親が赤ちゃんを背中におぶって連れ歩くということを述べているが、これに対してアメリカのお母さんがどうするのが書いてない。ここはやはり書き換え例のように具体的にどう違うのかを説明すべきところである。なお、第3文の What a difference! というのもいただけない。こういうのは読者が最後にそう思ってくれればいいわけで、説明する前に自分が先に納得してしまうというのはルール違反である。

第6文の By the way というのは要するに「話はそれますが」という意味だが、そもそも途中で話をそらしてはいけなかったのであって、エッセーの途中でこれが出てくると、ま

ずろくなことがない。この例文でも、話をそらした結果 Well, I think American cats just don't know... とアメリカの猫に説教をたれ、おまけに「もしもぼくが猫だったら」などと、とんでもないことまで言い出している。ここまで話がそれれば、当然、どこかで Anyway, ... と強制的に話題を元に戻さざるを得ない。この部分は、やはり書き換え例のように raw fish に対する日米の違いという点にポイントを絞って、その前のふたつの事例と同じスタイルで述べるべきところである。ペンパルに会ってうれしかったとかアメリカの猫がどうしたという話はこのエッセイの主題には関係ないわけで、こういうのはばっさり削除する必要がある。

原文では第11文 (Anyway, ...) から全体のまとめに入っているわけだが、ここはいかにも説得力がない。パターンとしては冒頭の主題文を別の形で再現しながら議論の趣旨を確認し、最後に全体のまとめに入るというスタイルになっているが、I know many other examples, but I think you already understood... と言われても、はいそうですかと素直に納得するわけにはいかない。同じことを言うにしても書き換え例のようにするほうがはるかに説得力が出てくる。

結局、このエッセイは英文ライティングは「英語」だけの問題ではなく、ましてやその形式だけをまねしようとしてもなかなかうまくいくものではないということをよく示している。本質的には、「思いついたことをつれづれなるままに書き連ねる」という習慣から抜け出さないかぎり、どうあがいてもいい文章は書けないということだろう。ちなみに、この書き換え例はあくまでも「下書き」が固まったという段階のもので、これを、ここからどう練り上げ、ふくらませていくかが勝負になることは言うまでもない。

→「問題5」の解答例は省略。なお、本文を和文、英文のいずれで書いたにせよ、one paragraph, one topic の原則に従い、かつ各パラグラフが明確な主題文を持ち、支持文(説明文)によって具体的に説明・敷衍されていけばよい。

